【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第５区分
【発行日】平成29年8月31日(2017.8.31)

【公表番号】特表2004-510068(P2004-510068A)
【公表日】平成16年4月2日(2004.4.2)
【年通号数】公開・登録公報2004-013
【出願番号】特願2002-529579(P2002-529579)
【国際特許分類】
Ｄ０１Ｆ　　8/04　　　(2006.01)
Ｄ０１Ｆ　　8/06　　　(2006.01)
Ｄ０１Ｆ　　8/12　　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｄ０１Ｆ　　8/04　　　　　Z
Ｄ０１Ｆ　　8/06
Ｄ０１Ｆ　　8/12　　　　　Z

【誤訳訂正書】
【提出日】平成27年11月19日(2015.11.19)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４２】
一例として、温度調節材料は、相変化物質を含有する複数のマイクロカプセルを含んでよく、これらのマイクロカプセルは少なくとも１本の長手部材の中に均一に又は不均一に分散され得る。これらのマイクロカプセルは相変化物質を封じ込める中空の殻として形成され、種々の規則的な又は不規則的な形状（例えば球、楕円体など）および寸法に形成された個々のマイクロカプセルを含んでよい。個々のマイクロカプセルは同一の又は異なる形状または寸法を有してよい。本発明の幾つかの実施形態によれば、マイクロカプセルは約０．０１μないし約１００μの範囲の最大長さ寸法（例えば直径）を有してよい。一つの現在好ましい実施形態によれば、マイクロカプセルは概ね球状で約０．５μないし約３μの範囲の最大長さ寸法（例えば直径）を有する。格納構造の他の例を、限定することなく例示すれば、シリカ粒子（例えば沈降シリカ粒子、ヒュームドシリカ（ｆｕｍｅｄ ｓｉｌｉｃａ）粒子およびこれらの混合物）、ゼオライト粒子、炭素粒子（例えばグラファイト粒子、活性炭粒子およびこれらの混合物）、および吸収性物質（例えば吸収性ポリマー物質、高吸収性物質、セルロース系物質、ポリ（メタ）アクリレート系物質、ポリ（メタ）アクリレート系物質の金属塩およびこれらの混合物）が含まれる。一例として、温度調節材料は、相変化物質を含浸したシリカ粒子、ゼオライト粒子、炭素粒子または吸収性物質を含んでよい。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４３】
本発明の幾つかの実施形態によれば、１本または２本以上の長手部材がそれぞれ約５重量％ないし約７０重量％の温度調節材料を含んでよい。したがって、一つの実施形態において、長手部材は６０重量％の温度調節材料を含んでよく、また他の実施形態において、

長手部材は約１０重量％ないし約３０重量％または約１５重量％ないし約２５重量％の温度調節材料を含んでよい。